

[単元を貫く問い]

話したいことが聞き手に分かりやすく伝わるようにするにはどうすればいいのだろう

この単元と関連した領域の付いている力(◆)と内容(・)

- [第1学年]  
◆みんなの前で話す。話を聞いて質問や感想を述べる。  
・はなしたいなききたいな

本単元の目標

学びに向かう力、人間性等

- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

単元終了時のめざす児童の姿

- 聞き手に自分が話したいことが伝わるように、まとまりを表す言葉を使ったり話す事柄の順序を考えたりして、メモをもとに話している姿。
- 聞き手を意識し、声の大きさや話す速さを工夫して話している姿。

知識及び技能

- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(1) ア
- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。(2) ア

思考力・判断力・表現力等

- 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。  
A (1) イ
- 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。A (1) ウ

言語活動

聞き手に伝わるように、話す順序を考え、好きな教科二つをみんなに紹介する

【1時間】

- 様々な教科の学習活動を想起し、楽しかったことや好きなことについて話し合うとともに、「好きな教科を二つに絞って、家の人に話す」という学習課題を確認し、学習の見通しを立てる。

【知①・主①】

【3時間】

- 好きな教科について隣同士で聞き合い、話したい教科二つを決め、その理由もメモに書き表す。

【思①】

- 自分の話したいことが聞き手に伝わるように、話す順序やまとまりを表す言葉について考え、話す練習をする。(2時間)

(本時1/2) 【思①・知②】

【2時間】

- 好きな教科について声の大きさ等に気をつけながら発表をする。

【思②】

- まとまりを表す言葉や理由を話すときに使った言葉を確認し、みんなの前で話すために学習したことを振り返る。

【主①】

見方・考え方を働かせている児童の姿

- 各教科の学習を想起し、「好き」「得意」「楽しい」といった思いをもち、これまでの学習を生かしながら順序立てて相手に伝えることに取り組もうとしている。

- 友達とのやり取りの中で、好きな教科と好きな理由について明確にしようとしている。
- 友達との対話を通して、「何から話すかを決める」「一つずつ話す」「まとまりを表す言葉を使う」といった聞き手に伝わりやすいポイントをつかみ、話す事柄の順序を考えて話している。

- 聞き手に届ける声の大きさや姿勢、話す速さに気をつけて話している。
- 話の内容が聞き手に伝わるようにするには、伝えたい事柄のまとまりを考え、順序立てて話す必要に気付き、これからの学習に生かそうとしている。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 (1) ア	①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。 A (1) イ	①進んで、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、学習の見通しをもって紹介しようとしている。
②共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。 (2) ア	②「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 A (1) ウ	

この単元からつながっている領域の付きたい力(◆)と内容(・)

- [第3学年及び第4学年]  
◆相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える力。
- [第5学年及び第6学年]  
◆話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考える力。
- [中学校第1学年]  
◆自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考える力。
- [中学校第2学年]  
◆自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫する力。
- [中学校第3学年]  
◆自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する力。

他教科等との関連

- 各教科の学習活動
- 学級活動

児童の実態と指導観

この単元における重点指導事項は、学習指導要領における「思考力・判断力・表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」(1)イ「相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること」である。児童はこれまで、みんなの前で簡単な組み立てに沿って話すことを学習してきた。また、説明文「どうやってみをまもるのかな」「いろいろなふね」においては、事柄ごとに順に説明する文章に触れてきている。それらの経験を踏まえ、本単元では、話の内容が聞き手に伝わるように、順序を考えて話すことができるようになることをねらいとしている。

本学級の児童は、日頃の学習においてペアやグループ活動に積極的で、話すことへの抵抗感は見られないものの、思いついたままに話すことが多く、聞き手に分かりやすいように順序立てて話すことが難しい。聞き手に分かりやすく伝えるために、事柄ごとにまとまりを作って話す必要に気付かせるとともに、二つの教科をどんな順でどんな言葉を使って話すか、児童自身が考え、主体的な学習を展開していきたい。また、本単元で身に付けた力を、各教科等における発表や、朝の会や帰りの会等での発言の機会など、汎用的に生かせるようにしていきたい。

